

④ マンサク マンサク科マンサク属 <sup>日本の野生植物 木本Ⅱ</sup> 平凡社発行 採種  
 全国の山地に生える落葉小高木。

早春、葉が出る前に、黄色い花をつける。花は、  
 葉の付け根に1つずつ、あるいは数個ずつ、わび  
 まってつく。花弁は4枚あり、黄色くりボン状で、  
 1cmほどである。がくも4枚で、がく片はたまご形  
 で反り返っているが、内側は暗紫色を染めており、外側  
 には毛の密生している。花の中には、短いおしべ4  
 本と、2本の花柱をもっためしべがある。

実は丸く、外側には短い毛が密生し  
 ている。熟すと、2つに裂け、黒光りして  
 いる種子ははじき飛ぶ。

マンサクという名の意味は、「満ちること、量作  
 と同じ意味である。この木が、枝いっぱい花を咲かせるので、このように言う。  
 また、マンサクとは「まず咲く」のことで、この花が、ほかの花にさきおけて、早  
 々と咲くことから出た名だとも言われている。

花の表面



花の裏面



2002.3.26 前倉

⑤ マルバマンサクは、葉が <sup>卵形</sup> 卵形形で 先は円い。北海道西側部から本州の日  
 本海側を鳥取県まで分布する。子つうは、花が紫色であるが、ときに紅色を帯  
 びることがある。



マルバマンサクの葉  
 2002.6.  
 前倉